

No. 7月-15

復 命 書

17年 7月 11日

静政会 代表

鈴木 和彦 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

17年 7月 9日(土)～7月 10日(日)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

愛知県春日井市・長久手町

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

春日井市:人間の安全と保障地球市民フォーラム 2005に参加

「人間の安全保障をめざして 国際機関・行政の視点から」

「多文化共生と人間の安全保障」等

長久手町:愛地球博視察

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

人間の安全保障・地球市民フォーラム 2005

セッション 1

人間の安全保障をめざして一国際機関・行政の視点からー

アフガニスタン復興に尽力した外務省駒野欽一大使から日本政府の取り組みの説明があった。続いて、人種差別を克服する世界の都市のネットワークづくりに取り組んでいるユネスコの諸橋淳さん、人身売買の被害者を救うために活動している国連人身売買問題特別報告者、シグマ・フーダさん、そしてストックホルム市副市長テレス・リンドベリさんの先進的な取り組みが語られた。

アフガンの人たちは、日本円にして、一日 200 円の生活の説明に驚いた。農業開発、軍閥解体など緊急課題。日本の3分の1の人は、一日100ドルを越える生活をしている貧困の差が顕著。スウェーデンの話は、かなり心引かれた。市議会の48パーセント・市職員の76パーセントは女性とのこと、男女同じ条件ならば同じ賃金、すべてジェンダーの視点で見る。さすが北欧は進んでいる。もう少し女性議員を増やさなければと実感した。

セッション2

多文化共生と人間の安全保障

互いに違った文化の違った持ち味を共同で楽しむ事が人間の安全保障の大前提。グローバル化したにもかかわらず植民地支配の北側とその被害者である南側の和解がむずかしい。が、これを多文化共生の世界の実現で可能にしたい。50年前のバンドンのアジア・アフリカ連帯会議での決議を今こそ、地域・町のレベルで実現・実践していかなければと思った。日本の中にも様々な問題がある。オールドカマーとニューカマーなど平等意識を持たなければと思った。

第三世界フォーラム代表・ベルナール・フヌーさん
タイ・チュロンコン大学教授・スリチャイ・ワンゲオさん
アメリカン大学ランドルフ・プラサードさん
オランダ・ISS 上級講師・タンダム・トゥルンさん
それぞれの立場からの発言は興味を持てた。人権という事を原点に考えるべきだ。静岡市の国際交流推進の目標もここにあった。共生共存平等である。

セッション3

ジェンダー平等と人間の安全保障ー北京+10を超えてー

地域の暮らしを担っている主として女性たちにとって、人間の安全保障とは何か？平和に安心して、心豊かに暮らせる社会、これこそが、最終目的である。パネリスト・DAWN・フィリピンのジジ・フランシスコさん。カナダ・ヨーク大学教授イサベラ・バックーさん。ドイツ・ミュンヘン大学教授ブリギッタ・ヤングさんたちは、パワフルにグローバルな視野でそれぞれ自分の地域に根っこをはって、日々の暮らしの中、子育てなど実践活動からグローバルな問題提起をされたのはすごいと思った。原点は私自身が感じている問題と何ら変わらないむしろ共通点がたくさんあり共感できた。私的なことほど政治である。決定するプロセスに女性が関わらなければならない。何事もローカルからスタートする。経済のしくみは、不平等・格差・階層化が固定化している。などなどこのセッションが1番身近に感じられたし実践するヒントが得られた。

愛・地球博 長久手会場視察

7月10日(日)、午前中のシンポジウムを終えての移動だったので、会場に入れたのは午後1時頃になり、午後6時には帰路につかなければならなかったのと思うように視察できずに残念だった。日曜日という事もあり、人気のパビリオンは軒並み90分待ちで、比較的すいているアジア・南太平洋地域のパビリオンに立ち寄った。これからの国際交流はこの地域が大事だと思っているので、かなり有意義であった。

中部電力の仲間が一緒だったので、電力館だけは立ち寄れてラッキーだった。他の企業館や外国館などゆっくり時間をかけて視察する価値があると痛感して帰路についた。